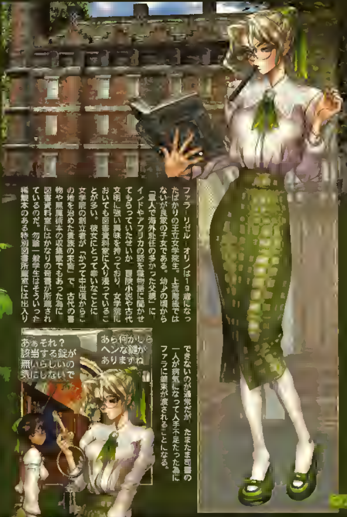
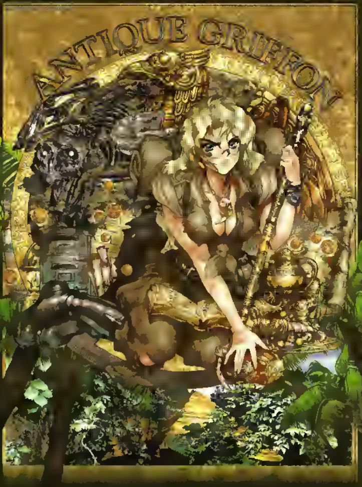
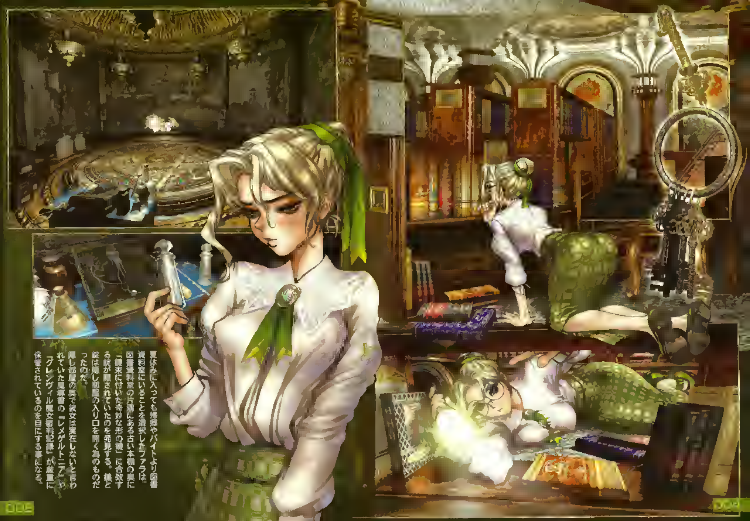
ファラーリゼルーオリノは19歳になったばかりの王立女学院生。上流階級ではないが良家の子女である。幼少の頃から「軍人で海外赴任の多かった父親」にインドやアフリカの話を寝物語に聞かせてもらっていたせいか、冒険小説や古代文明に強い興味を持っており、女学院においても図書資料室に入り浸っていることが多い。彼女にとって幸いなことに女学院の創立者が「かつて中世頃からこの地を治めた貴族の末裔」で、古代の書物や黒魔術本の収集家でもあった為に図書資料室にはかなりの稀書が所蔵されているのだ。勿論一般学生はそういった稀覯本のある特別図書所蔵室には出入りできないのが通常だが、たまたま司書の一人が病気になって人手不足だった為にファラに鍵束が渡されることになる。


あら何かしら
ヘンな鍵がありますね
あぁそれ？
該当する錠が無いらしいの
気にしないで


ANTIQUE GRIFFON

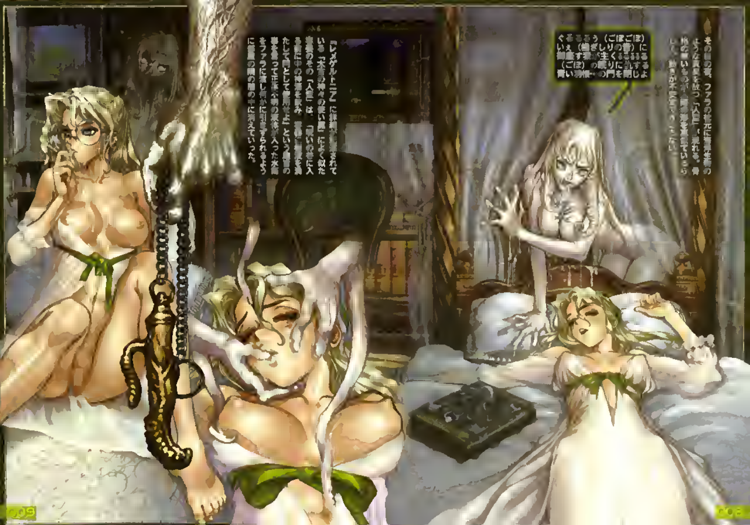


夏休みに入っても帰郷やバイトより図書資料室にいることを選択したファラは、図書資料室の片隅にある古い本棚の奥に「鍵束に付いた奇妙な形の鍵」に合致する錠が隠されていたのを発見する。鍵と錠は隠し部屋の入り口を開く為のものだったのだ。

隠し部屋の奥で彼女は実在しないと言われていた魔導書の『レメゲルトニア』や『グレンヴィル魔女審判記録』が厳重に保管されているのを目にする事になる。

はエジプト出土品から[illegible]
ヒエログリフ部分は二種[illegible]
「緑の蛇神の青い液体分泌
の神々を遠ざけるといった黒魔
嫌いであるそうだ。青い黒魔人が
蛇神から採取したヨい液体を神々の
に使用することを[illegible]

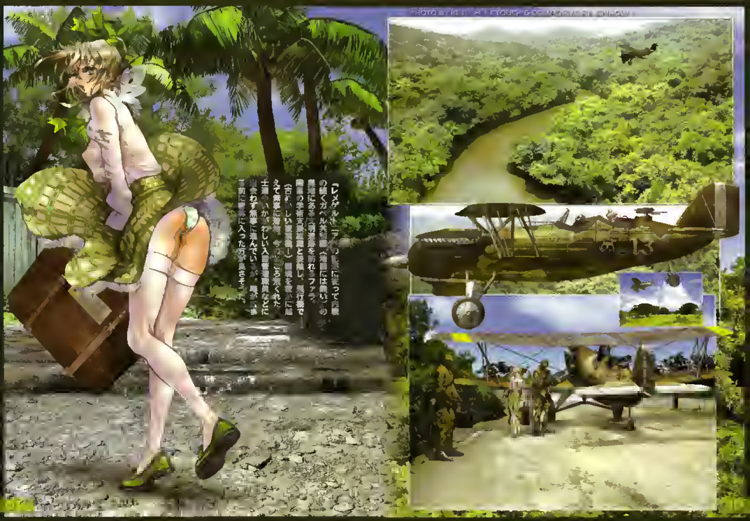
『レメゲルトニア』には太古の書に封印
され オリオン座の方角にあるガス星雲
の中で今も復活の時を待っている暗黒の
神[illegible]の記録として書か
[illegible]


ぐるるるぅ（ごぼごぼ）
いぇ（歯ぎしりの音）に
御座す我が主く[illegible]るるる
（ごぼ）の眠りに[illegible]する
青い[illegible]の門を開しよ

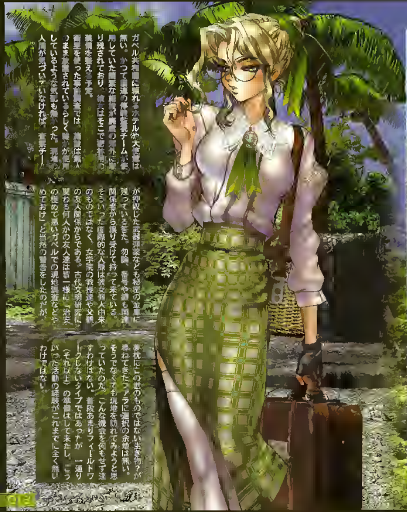
その日の夜、ファラの枕元に[illegible]生物のような異臭を放つ「人影」が現れる。骨格の[illegible]いものが[illegible]を直視ていると[illegible]動きが不安定で[illegible]

『レメゲルトニZ』に[illegible]されている『太古の神々の使い魔』によく似た容姿のその「人影」は、「呪いの巻に入る前に中の神酒を飲み[illegible]を満たして門として使用せよ」という内容の事を言って正体不明の液体が入った水筒をファラに渡し何かに引きずられるように書庫の隅の闇の中に消えていった。

PHOTO BY [illegible]



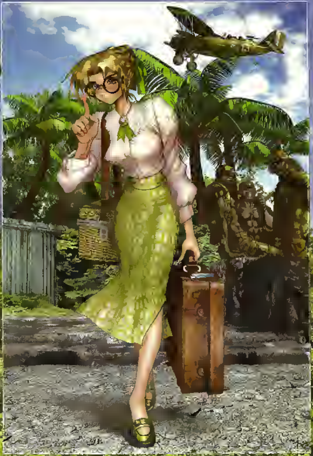
『レメゲルトニア』の[illegible]に従って内戦の続くガベル共和国（地図には無い）の奥地にある[illegible]遺跡を訪れるファラ。[illegible]の学術支援組織と契約し、飛行機で（古めかしい複葉機）[illegible]境を密かに越えて無事に着陸。今のところ荒くれた兵士達やいかがわしい入国管理職員などに出会わず無事に進んでいるが、[illegible]前に[illegible]に入った方が良さそうだ。

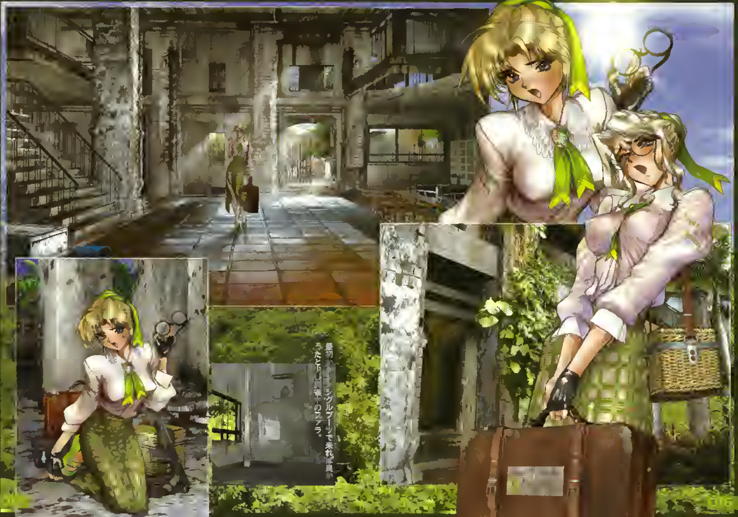


ガベル共和国に溢れるホテルや大金庫は無い。かつて最速の情報収集チームが使用していた簡素な建物が首都の郊外に取り残されており、彼女はそこで資料等の装備を整える予定。衛星を使った事前調査では、建物は無人のまま放置されているらしく誰かが使用しているような気配も無かった。現地の人間が気づいていなければ、査察チー

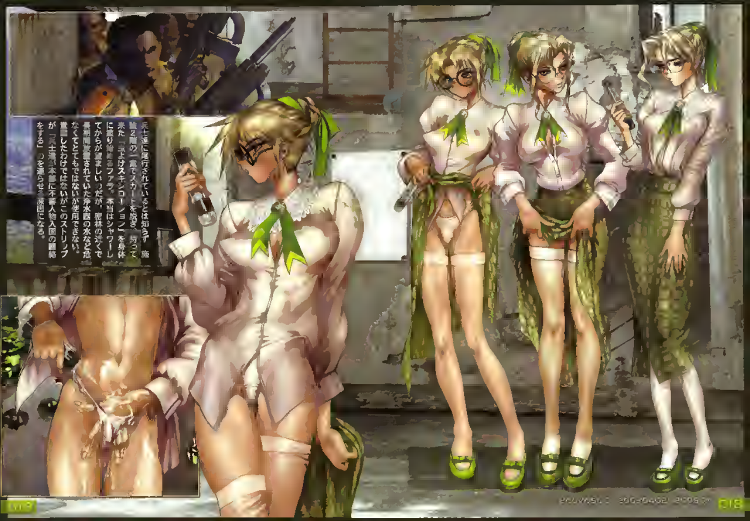
が押収した武器弾薬なども秘密の金庫に残っている筈だ。勿論、暗号や鍵も国連関係者から譲り受けて持って来ている。そういった国際的な人脈は彼女個人由来のものではなく、女学院の教授達や父親の友人関係からである。古代文明研究に関わる何人かの友人達は皆一様に「治安の極めて悪いガベルでの現地調査などやめておけ」と当然の警告をしたのだが、

夢枕にこの世のものではない生き物？が尋ねてきたアラに選択の余地は無い。そうでなくても現地を訪れてみようと思っていたのだ。こんな機会を何もせず逃すわけはない。普段あまりフィールドワークしないタイプではあったが、一通り（それ以上）の準備はして来たし、こういった活動の経験がこれまでに全く無いわけではない。

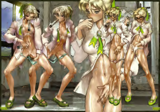




最初か[illegible]シグルプーリで来れば良か
ったとぼし[illegible]のステラ。



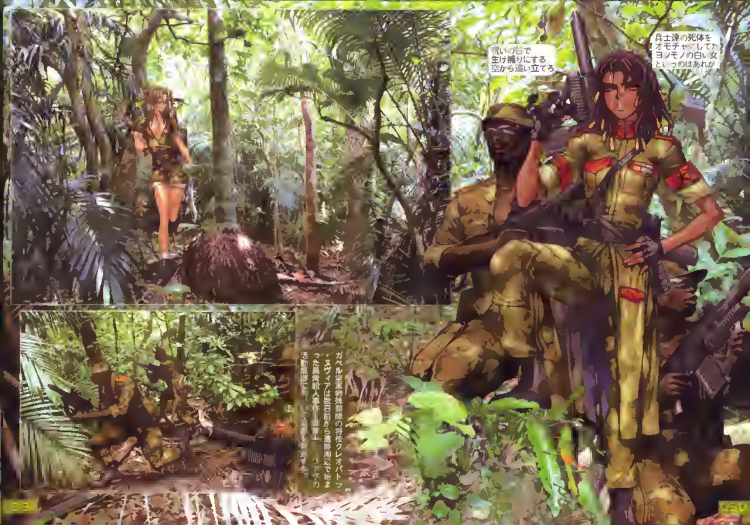
兵士達に尾行されているとは知らず　施設2階の一室でスカートを脱ぎ、持って来た「虫よけスキンローション」を身体に塗り始めるファラ。本当はシャワーしてからが望ましいのだが、密林の近くで長期間放置されていた浄水器の水など危なくてとてもではないが使用できない。意図したわけではないがこのストリップが「兵士達が本部に不審人物入国の通報をする」のを遅らせる原因になる。



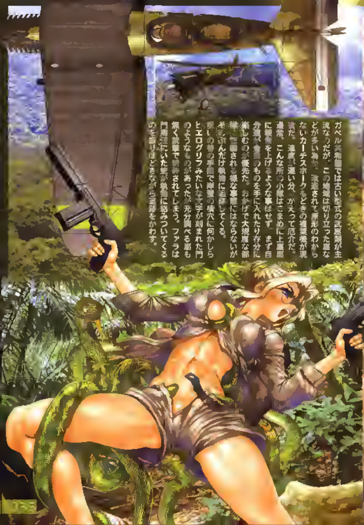
20070101

兵士が無理矢理抱え上げようとした際に「虫よけスキンローション」が機能してずるりと床に崩れ落ちるファラ。何の偶然か手元近くにさっき入手した火器があり　油断しきっていた兵士達はイタイ目をみることに……。

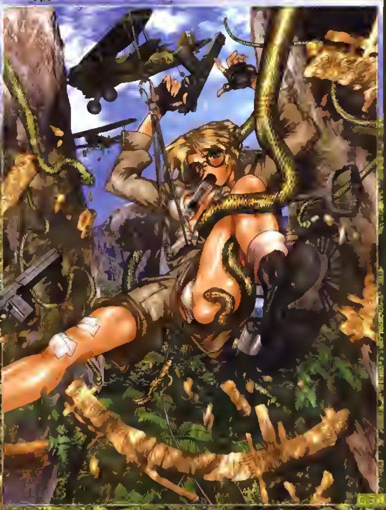
ほ…本で見るのと
全っ然違うわね…
…これって
どうなのかな…？
びくん

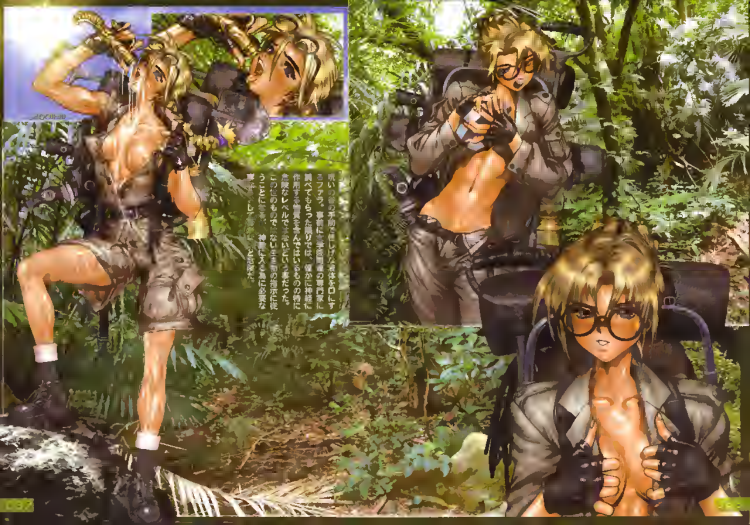

兵士達の死体を
オモチャにしてた
ヨソモノの白い女
というのはあれか
呪いの谷で
生け捕りにする
空から追い立てろ

ガベル空軍特殊部隊の将校クレオパトラ・スヴィアは数日前から遺跡周辺で始まった異常殺人事件[illegible]の活動[illegible]

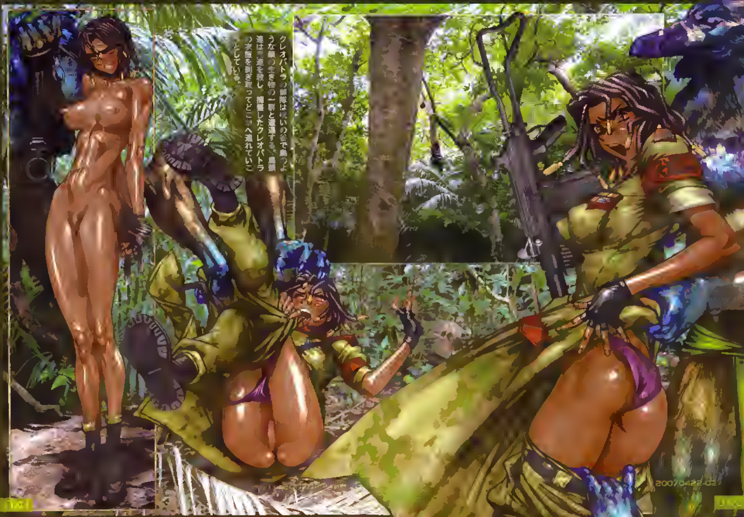


ガベル共和国では古い型式の武器類が主流なのだが、この地域は切り立った崖などが多い為か、放棄されて原形のわからないカーチスホークもどきの複葉機が現役だ。速度が遅い分、かえって厄介だ。最初、こんな所の小隊はこまめに上層部に報告を上げるような事はせず、まず自分達が金目のものを手に入れたり存分に楽しむのが優先だ。おかげで大規模な部隊が投入される様な事態にはならないが迷い込んだけ執拗に追跡してくる。現地の者の手引で岸壁の横穴に何かしらヒエログリフみたいな文字が刻まれた門のようなものがあったが充分調べる暇も無く攻撃で粉砕されてしまう。ファラは門周辺にいた蛇が執拗に絡みついてくるのを振りほどきながら銃弾をかわす。





呪いの谷の手前で怪しげな液体を口にするファラ。事前に薬学部関連の専門家に調べてもらった限りでは、僅かに神経に作用する物質を含んではいるものの特に危険なレベルでは無いという事だった。この世のものではない王子の指示に従うことになるが、神殿に入る為に必要な事として[illegible]と[illegible]た。

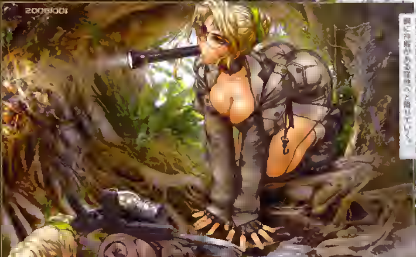


クレオパトラの部隊は呪いの谷で鳥のような謎の生き物の一群と遭遇する。鳥獣達は兵達を殺し、捕獲したクレオパトラの衣服を剥ぎ取ってどこかへ連れていこうとしている。

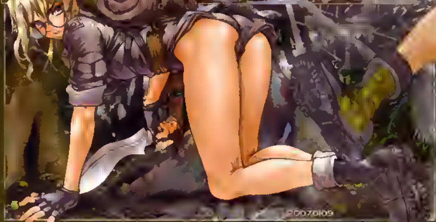
20070422-02

2001

ニーラはクレオパトラと青い鳥[illegible]の足跡や羽根を追跡して、ジャングルの中に完全に輝くピラミッドを発見する。一見して全体的にはエジプトタイプだが細部に南米の神殿のタイプのような要素もある。「レメゲルトン」の解読に一致する「魔方陣配列」をしており、これが目的の古代遺跡に間違いなさそうだと判断したファラは[illegible]しながら遺跡の探索を開始する。

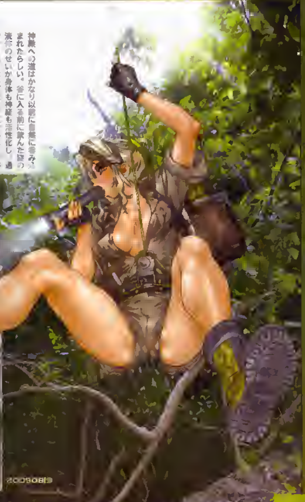


20081001



20070109

神殿への道はかなり以前に自然に呑み込まれたらしい。谷に入る前に飲んだ謎の液体のせいか身体も神経も活性化し、通常なら小さなキズだらけになるような移動作業が比較的楽に行えて、ララは順調に神殿がある聖地へと降りていく。

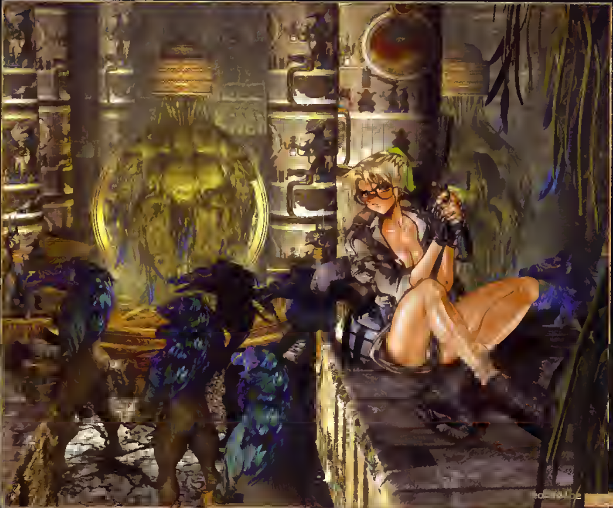


20090819

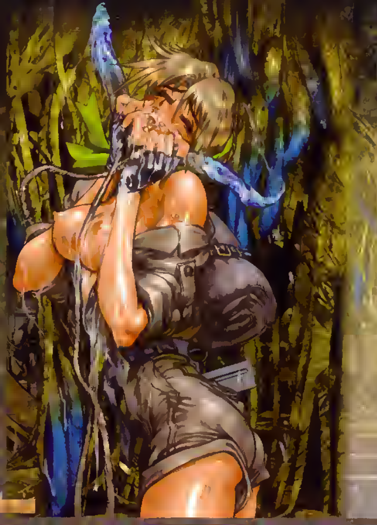
ピラミッドの内部でファラは青い鳥のような頭をした生き物達が液体の入った大きな瓶を運んでいるのに遭遇する。廊下のあちこちに祭壇のような台があり其々に巨大なマンドラゴラが生えている。生き物達が運んでいる液体はどうやらこのマンドラゴラから採取したものらしい。

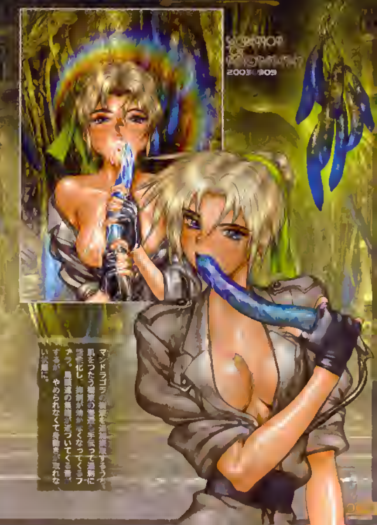
樹液が滴り落ちている床には、マンドラゴラの根に絡みつかれた沢山のミイラ化した「人間だったような塊」が見える。何体かは遊牧民や旅人などの塊に見え、かなり新鮮な「おそらくさっきまでガメルの兵士だったもの」のようだ。また利用可能な装備などがあるかもしれない。

瓶に入っていた「神経に作用する液体」はどうやらこのマンドラゴラの樹液らしく、同じ甘い香りが辺りに充ちている。この液体に関してヒエログリフでは「死の神を遠ざける」以外、「闇の知識を注ぐ」或いは「神の知識を注ぐ」といった意味不明瞭な記述しかなされていない。



200306





[illegible]
2003[illegible]909

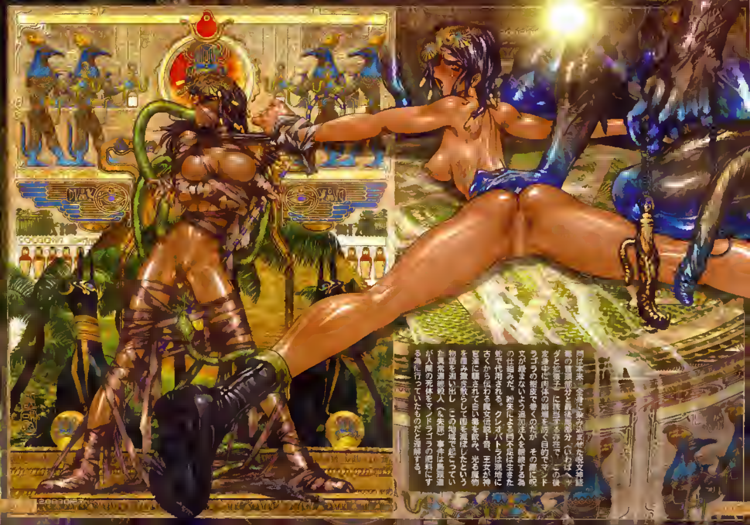
マンドラゴラの[illegible]するうち、肌をつたう[illegible]の[illegible]も手伝って過剰に[illegible]化し、[illegible]が[illegible]くなってくるフチラ。[illegible]の[illegible]が近づいてくる音がするが　やめられなくて身動きが取れない状態に。

20060628

[illegible]とした頭の中に黒魔道が発する呪文（らしきもの）が聞こえ、ファラはマンドラゴラの精液が「神の知識（呪文）を脳に焼き付ける為の神秘系薬物」である事を身をもって知る。黒魔道はファラに「千匹の仔を孕む黒山羊」に捧げる生贄になるよう呪文をかけている。ファラは大学院の書庫を訪ねてきた生き物の言った事が、呪文のかかった精液を[illegible]に入れ「千匹の仔を孕む黒山羊」つまり異界の門となるクレオパトラに門をかける事であると理解する。

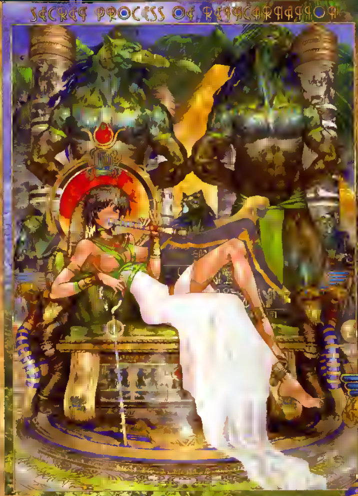
集めた精液を門に移すファラ。乾燥[illegible]ていた門が蠢動し始める。

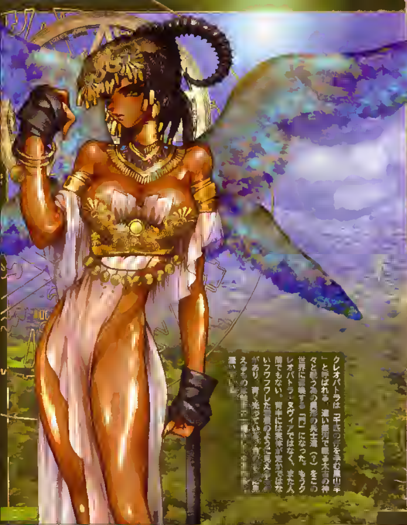
クレオパトラはマンドラゴラの精液を浸透させた緑の蛇の[illegible]を全身で摂取し「千年の[illegible]山羊」に変身する過程にある。古代のレリーフにあるように蛇の門に精液を満たしたものを飲み その[illegible]が本来の[illegible]だが、[illegible]かひとつ足りなくなっており、代わりに憑れたように激しく変態したマンドラゴラの[illegible]る。



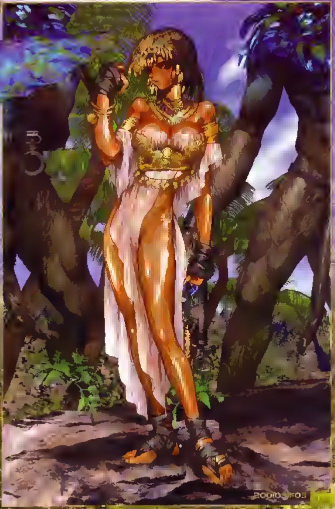
肉は本来、全身に染み込ませた呪文包帯の重要部分と最重要部分（いわば[illegible]ダと処女子）に該当する存在で、この後変身中に肉体の崩壊を防ぐ目的でマンドラゴラの樹皮で巻くのだが、その際に呪文が崩れないよう追加注入を継続する為の仕組みだ。紛失による回不足は生きた蛇で代用される。クレオパトラは現地に古くから伝わる魔女伝説…曾、王女が神官達に騙されて白い毒を飲み、光る魔物を産み散らして国を滅ぼしたという物語を洗い出し、この地域で起こっていた異常連続殺人（＆失踪）事件は魔導達が人間の死体をマンドラゴラの肥料にする為に行っていたものだと理解する。

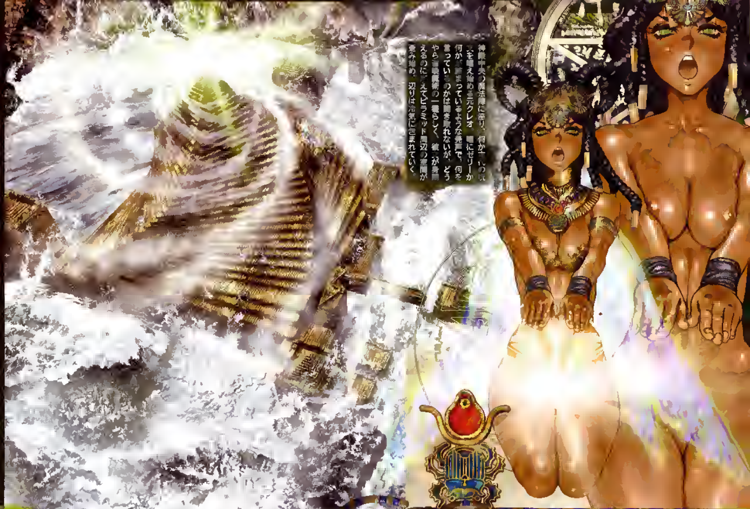
20100308


SECRET PROCESS OF REINCARNATION

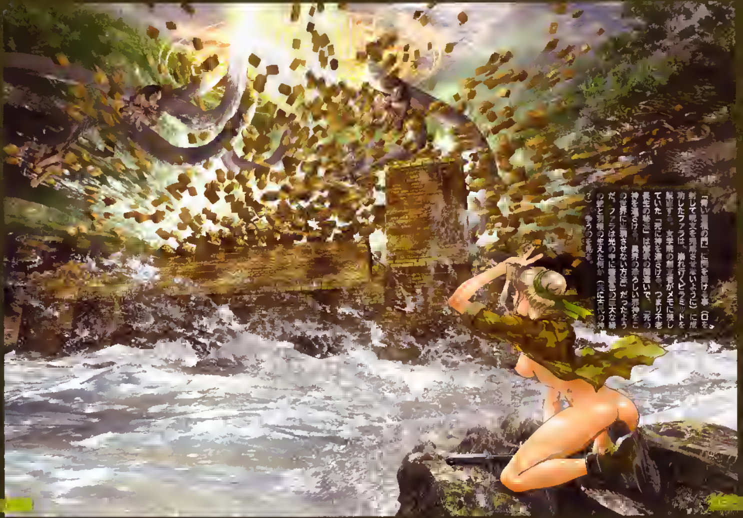


クレオパトラは「千匹の仔を孕む黒山羊」と呼ばれる、遠い銀河で眠る太古の神々と戦う為の異形の兵士達（？）をこの世界に召喚する「門」になった。もうクレオパトラ・ヌヴィアではなく、また人間でもない。背中には実体が定かではないフワフワした雲霞のように見える[illegible]があり、青く光っている。[illegible]えるもの[illegible]羅い[illegible]

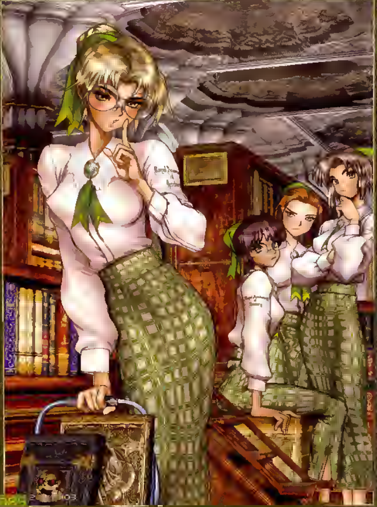


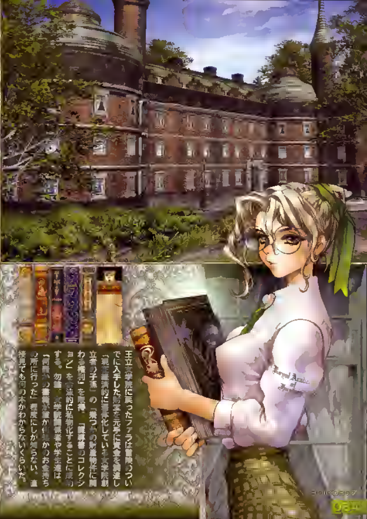


神殿中央の魔法陣に座り、何か古代の呪文を唱え始める元クレオ。喉にゼリーか何かが詰まっているような発声で、何を言っているのかは聞き取れないが、どうやら召喚魔術の一種らしく、彼女が身悶えるのに応えてピラミッド周辺の空間が歪み始め、辺りは冷気に包まれていく。

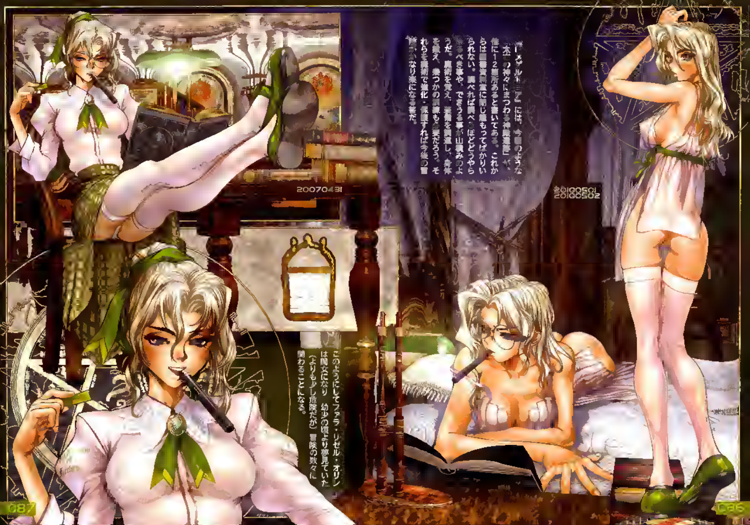


「暗い冥界の門」に背を向ける事（口を封じて呪文を発動させないように）に成功したファラは、崩れ行くピラミッドを脱出する。文学院の偏執者がメモに残していた「死に神を遠ざける、つまり不老長生の秘法」は解釈の間違いで、「死の神を遠ざける、異界の恐ろしい邪神をこの世界に出現させない方法」だったようだ。ファラは光の中に黄金色の巨大な緑の蛇と羽根の生えた何か（実に古代の神？）が去るのを見た。





王立文学院に戻ったファラは冒険のついでに入手した財宝を元手に資金を調達し「現在経済的に窮乏化している文学院創立者の子孫」の「幾つかの財産物件に関わる権利」を取得。「創立者のコレクション」を合法的に私物化することに成功する。勿論、文学院関係者や学生達は「何冊かの書籍が誰か何処かのお金持ちの所に行った」程度にしか知らない。直接見ても何の本かわからないくらいだ。



『メザルトミア』には、今回のような「太古の神々にまつわる神殿遺跡」が、他に12箇所あると書いてある。これからは図書資料室に閉じ籠もってばかりいられない。調べれば調べるほどどうやら調べるべき事や、できうる事が山積みのようだ。魔術を覚え、装備を調達し、身体を鍛え、幾つかの訓練も必要だろう。それらを魔術で強化・保護すれば今後の冒険がかなり楽になる筈だ。

このようにしてファラ・リゼル・オリンは魔女になり　幼少の頃より夢見ていた（よりも少し危険だが）冒険の数々に関わることになる。